

書 評 : Alan Graham. 2011. *A Natural History of the New World: The ecology and evolution of plants in the Americas*. xvi + 387 pp. 228 × 151 mm. ISBN978-0-226-30680-3. The University of Chicago Press, Chicago. 40.00 US\$ (PB).

本書は10年前に刊行された *Late Cretaceous and Cenozoic History of North American Vegetation: North of Mexico* (1999) (書評: 植村, 2000, 植生史研究 8: 86) および昨年刊行された *Late Cretaceous and Cenozoic History of Latin American Vegetation and Terrestrial Environments* (2010) の内容を一つにして一般向けに書き直したものである。

本書の構成は大きく2部に分かれている。前半では、現在の地形と気候環境、植生をテクトニックな発達史に基づいて概観し、後半で白亜紀中期から最終氷期までを四つの時期にわけて化石植物相の発達を概観する。それぞれの部分は、北米と、中米、南米に分けて記述されていて、適宜、上記の2冊の中の図も直接あるいは間接的に引用されている。評者のように南北アメリカの地理や植生にあまり馴染みのない読者にとっては、この部分は取っつきにくい内容であるが、多くの図や写真が挿入してあり、イメージをつかみやすいように工夫されている。また研究史上のエピソードにもしばしば触れられており、読み物としての魅力も持っている。後半は、一般の古植物学の教科書にある

ような分類群の進化よりは、植物相と植生の進化を中心として構成されており、直接、化石を研究対象としていない読者にも親しめる内容になっている。この前半と後半の間には、海水準の変動や、古水温の推定、生層序、年代測定、古地磁気、進化系統を簡単に紹介した章と、古植物学と古花粉学を紹介した章が挟まれており、一般読者に対しての後半への導入となっている。

評者は大学院のときに読んだ *Floristics and Paleofloristics of Asia and Eastern North America* (1972) の著者としてはじめてこの著者の書物に接していたが、それから40年を経てまたこの著者の書物を読んでいると思うと、欧米の研究者の息が長いのに感心させられる。むこうでは大学や研究所を退職しても、客員研究員として研究が続けられることが多いため、こうした一生をかけた研究が可能となるのであろう。冒頭にあげた2冊の本は大部であって屋外に持ちだすようなものではないが、本書はほぼA5版の大きさであり、内容も最新の情報を含めてほどよくまとまっており、自然誌の研究者や愛好者が南北アメリカに旅する際に好適な旅行ガイドとなると思われる。(能城修一)